

# 平成30年度学力向上プラン

大分市立明野中学校

## 1 学力定着状況の概況

### ○中学2年生 大分県学力定着状況調査から

#### (1) 全体的な結果の捉え

正答率は全ての教科で目標値を超えており、国語・社会・数学・英語では問題別、領域別、観点別においても全ての項目で目標値を超えている。理科は力と圧力、植物のからだの問題が目標値を超えていない。したがって、全体的な定着状況は高い状態であるといえる。

#### ア 本校正答率と目標値との比較(網掛けは下回っている部分)

国語	全体 71.4(+ 7.8 )	知識 75.2(+8.7)	活用 57.4 (+ 4.5)
社会	全体 59.5(+ 8.1 )	知識 61.5(+8.2)	活用 50.4 (+ 7.4)
数学	全体 73.5(+15.4 )	知識 77.7(+17.2)	活用 53.5 (+ 6.8)
理科	全体 58.1(+ 3.0 )	知識 64.9(+ 4.3)	活用 41.9 (- 0.1)
英語	全体 63.5(+ 8.1 )	知識 64.8(+ 6.8)	活用 60.1 (+ 11.1)

#### イ 問題別正答率について(目標値を10P以上、上回る内容と下回る内容)

<上回る内容>

国語	話し合いの内容を聞き取る	10.2
	漢字を書く	20.3
	文法・語句に関する知識	22.4
	作文	26.0
社会	世界各地の人々の生活と習慣	22.8
	世界の諸地域	13.9
	古墳時代まで	10.6
	飛鳥時代～平安時代	18.4
	中世の日本	14.0
数学	計算の復習	13.7
	文字式	22.7
	1次方程式	25.0
	比例・反比例	24.6
	平面図形	26.5
	空間図形	31.9
	資料の散らばりと代表値	31.5
理科	植物の分類	15.3
	気体の性質	15.5
	音の性質	13.1
	火山	20.4
	地層	19.3
	光の性質	11.2
英語	リスニング	12.5
	語形・語法の知識理解	11.5
	さまざまな英文の読み取り	10.6
	長文の読み取り	10.6
	単語の並びかえによる英作文	16.6
	3文以上の英作文	29.0

<下回る内容>

理科	力と圧力	-34.4
	植物のからだのつくりとはたらき	-15.0

#### ウ 領域別正答率について

国語・社会・数学・英語については全ての領域で目標点を上回っている。  
理科については「エネルギー」について 1.3P 下回っている。

#### エ 観点別正答率について

国語・社会・数学・英語については全ての領域で目標点を上回っている。  
理科については「観察・実験の技能」について 5P 下回っている。

### ○中3全国学力・学習状況調査から(左:本校 右:全国)

教科	正答率		領域別正答率		観点別正答率	
国語 A	79.0 本校	76.1 全国	話すこと・聞くこと	75.9	関心・意欲・態度	—
			書くこと	77.0	話す・聞く態度	75.9
			読むこと	79.1	書く能力	77.0
			言語文化と国語の特質	80.0	読む能力	79.1
			—	知識・理解・技能	80.0	

※領域別・観点別すべての項目で全国を上回っている。

教科	正答率		領域別正答率		観点別正答率	
国語 B	63.0	61.2	話すこと・聞くこと	79.0	関心・意欲・態度	52.3
			書くこと	32.4	話す・聞く態度	79.0
			読むこと	54.4	書く能力	32.4
			言語文化と国語の特質	54.2	読む能力	54.4
			—	知識・理解・技能	54.2	

※領域別・観点別すべての項目で全国を上回っている。

教科	正答率		領域別正答率		観点別正答率	
数学 A	72.0	66.1	数と式	82.3	関心・意欲・態度	—
			図形	72.2	見方や考え方	—
			関数	60.1	技能	77.8
			資料の活用	63.0	知識・理解	68.1
			—			—

※「資料の活用」以外すべての項目で全国を上回っている。

教科	正答率		領域別正答率		観点別正答率	
数学 B	50.0	46.9	数と式	54.9	関心・意欲・態度	—
			図形	46.4	見方や考え方	48.3
			関数	59.8	技能	55.6
			資料の活用	41.9	知識・理解	—
			—			—

※「図形」以外すべての項目で全国を上回っている。

教科	正答率		領域別正答率		観点別正答率	
理科	70.0	66.1	物理的領域	77.7	関心・意欲・態度	77.6
			化学的領域	70.0	科学的な思考・表現	66.9
			生物的領域	76.1	観察・実験の技能	73.6
			地学的領域	59.9	知識・理解	73.9
			—			—

※領域別・観点別すべての項目で全国を上回っている。

## 2 具体的取組

### (1) 共通

- 教科横断的な取組を学校評価と連動させて行う。

区分	主に学校経営に係る重点目標と関連させる取組	
	具体的方策	取組
全 教 科	(1)授業改善による学力向上を図る。	①班活動を取り入れた授業の実践を 100%行い、「わかった、できた」という達成感を感じる生徒を 90%以上に。授業で疑問点やわからないところを解決・理解できるように取り組んでいると感じる生徒、70%以上に。
	(2)学習規律の確立を図る。	②「学習態度向上プロジェクト」(学習委員会活動)を授業で行い、学習規律達成を 90%以上にする。
	(3)家庭との協働を図る。	③家庭では、家庭学習についての資料を活用し、家庭学習の時間の確保に努めてもらう。 学校では、課題を提示し、帰りの会で課題の確認を行い、実施させることで定期考査でのC層(30点以下)の生徒を 10%以下にする。

### (2) 教科別

- 学校研究と連動させ、研究と実践の一体化を図る。
- ここでは 5 教科の取組を記載するが、技能教科も準ずる。

区分	生徒の状況	主に判断力・思考力・表現力を高めさせる取組等		評 価
		つけたい力	取組	
国 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に意欲的に取り組む。</li> <li>既習の漢字が身についていない。</li> <li>文章の読み取りや書くことが苦手である。</li> </ul>	<input type="radio"/> 漢字を書く力 <input type="radio"/> 語彙力 <input type="radio"/> 文章を読み取る力 <input type="radio"/> 書く力	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に漢字テストを実施して既習漢字の定着を図る。</li> <li>複数の辞書の活用。</li> <li>授業の初めに例文や書き方のパターンを示して、全員が取り組める工夫。</li> <li>自分の考えをもち、根拠を明確にして書いたものを交流する場の設定。</li> </ul>	
科 別 社 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業規律が身についており、落ち着いた雰囲気で授業に臨めている。</li> <li>基礎的基本的な内容への理解力は高いが、考えたり表現したりすることが苦手な生徒が多い。</li> <li>授業で挙手して発表する生徒が多い。</li> </ul>	<input type="radio"/> コミュニケーション能力 <input type="radio"/> 資料を読み取る力 <input type="radio"/> 社会的事象を捉え、考える力	<ul style="list-style-type: none"> <li>一時間完結型の授業の中で、考え、自分の意見をまとめる時間を確保する。</li> <li>班での討議やディベートなどの活動を取り入れる。</li> <li>問題演習やテスト後の解説を丁寧に行い、やり直しを徹底させる。</li> <li>時事問題や資料を活用した問題にも触れ、自分の考えを持たせる。</li> </ul>	

数 学	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業規律が良く、意欲的に授業に取り組める。</li> <li>授業での課題やプリントに積極的に取り組む。</li> <li>文章読解力が乏しく、長文の文章題に対応できない傾向にある。</li> <li>応用問題や発展的な内容に対して、徐々に粘り強く取り組むができるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎学力の定着</li> <li>○数学的な見方・考え方</li> <li>○文章読解力</li> <li>○筋道立てで説明する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業始めのプリント、家庭学習の活用によって多くの問題にふれさせる。</li> <li>適宜、班活動を取り入れ、話し合いや教え合いが展開される授業をする。</li> <li>言語活動の場面を設定し、自分の考えを説明したり、発表したりさせる。</li> <li>答えを導き出すまでの過程や理由を数学用語を用いて説明する活動を取り入れる。</li> <li>学習事項の定着が不十分な生徒に対する個別支援を行う。</li> </ul>	
理 科	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験には意欲的に取り組めている。</li> <li>計算力の不足。</li> <li>めあて、課題、予想、実験、結果、考察という授業形態を取り入れ、考えながら学習する習慣が身についた。</li> <li>予想や原因、結果に根拠を持って説明することが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報の活用力</li> <li>○思考・表現力</li> <li>○技能</li> <li>○知識・理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学的な用語を用い、理由を説明することにより思考力・表現力を育成する場を繰り返し作る。</li> <li>パフォーマンステストを適宜入れ、実験や観察の技能を定着させる。</li> <li>めあてや課題を適時に提示するとともに、板書の構造化により基礎学力の定着を図る。</li> <li>実験の予想を立てる際に、根拠となる事項を書かせる。</li> </ul>	
英 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペア活動やグループ活動に積極的に取り組み、コミュニケーションが取れている。</li> <li>言語活動に意欲的に取り組むが、表現活動が苦手である。</li> <li>学年が上がるごとに苦手意識を持つ生徒が増えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○語彙力</li> <li>○表現力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続して小テストを行い、表現力の礎となる語彙を定着させる。</li> <li>言語活動で表現したことを文章化させ、個別に添削指導する場を設定する。</li> <li>小グループ・ペア活動を継続して取り入れ、英語が苦手な生徒を教え合いでバックアップする。</li> <li>語順指導や、表現したくなるようなトピックの工夫を行う。</li> </ul>	

### (3) 家庭・地域との協働

#### ○家庭との協働

- 家庭は、家庭学習の時間確保に努める。
- 家庭学習の手引き等を作成し、家庭学習の仕方について示し、協力を得る。

#### ○地域との協働

- 補充学習への協力体制を整える
- 文化祭の合唱コンクールの採点をしていただく。